

事 務 連 絡  
令和2年12月23日

各都道府県教育委員会情報教育担当課  
各指定都市教育委員会情報教育担当課  
各都道府県私立学校事務主管課  
附属学校を置く各国立大学法人附属  
学 校 事 務 主 管 課 御中  
附属学校を置く各公立大学法人附属  
学 校 事 務 主 管 課  
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた  
各地方公共団体株式会社立学校事務主管課

文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課

ギガ スタ ディーエックス

「GIGA StuDX 推進チーム」の設置による支援活動のスタートについて（周知）

平素より、教育の情報化の推進に御理解・御協力いただきありがとうございます。

今般文部科学省では、GIGA スクール構想の実現に伴う1人1台端末及び高速大容量通信環境の積極的な活用を推進していくため、下記のとおり「GIGA StuDX 推進チーム」を設置し、全国の自治体や学校が参考となる事例の情報発信等を通じて、全国の教育委員会・学校に対する支援活動を展開することとしました。1人1台端末の利活用を推進する際に御活用ください。

このことについては、都道府県教育委員会においては、域内の市町村教育委員会及び所管の学校（大学除く）に対し、指定都市教育委員会においては、所管の学校に対し、都道府県私立学校事務主管課においては、所轄の私立学校に対し、附属学校を置く国公立大学法人においては、所管の附属学校に対し、構造改革特別区域法（平成14年法律第189号）第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の株式会社立学校事務主管課においては、所管の学校設置会社の設置する学校に対し、十分周知するようお願いいたします。

※「GIGA StuDX」とは：GIGA スクール構想の浸透による学びのDX(デジタルトランスフォーメーション)と学校の教育活動における ICT 利活用の促進のための Exchange (情報交換) を掛け合わせた造語です。

## 記

### 1. 趣旨

GIGA スクール構想の実現に伴う 1 人 1 台端末及び高速大容量通信環境の積極的な活用を促進するため、「GIGA StuDX 推進チーム」を設置し、1 人 1 台端末の利活用をスタートさせる全国の教育委員会・学校に対する支援活動を展開します。

### 2. 取組内容

スタディーエックス スタイル

#### ○ 特設ホームページ (「StuDX Style」) 等を通じた発信・共有による支援

1 人 1 台端末の利活用をスタートさせる全国の教育委員会・学校に対する支援活動を展開するため、「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる 1 人 1 台端末の活用方法に関する優良事例や本格始動に向けた対応事例などの情報発信・共有を随時行っていきます。

StuDX Style へのアクセス先：

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_01097.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_01097.html)



#### ○ 全国の教育委員会との情報交換プラットフォームの構築

全国の教育委員会において学校の教育活動における ICT 利活用を推進及び指導されている担当者（指導主事等）と有益な情報交換を行うことができるよう、プラットフォームを立ち上げます。

※ 各都道府県教育委員会情報教育担当課室宛に発出の令和 2 年 1 2 月 2 2 日付け事務連絡「GIGA スクール構想に係る ICT 利活用担当部署の登録について（依頼）」において登録を依頼している市区町村教育委員会担当部署の連絡先については、本チームによる情報交換等においても活用させていただきます。

### <添付資料>

別紙 1 「GIGA StuDX 推進チーム」の体制について

別紙 2 「StuDX Style」について

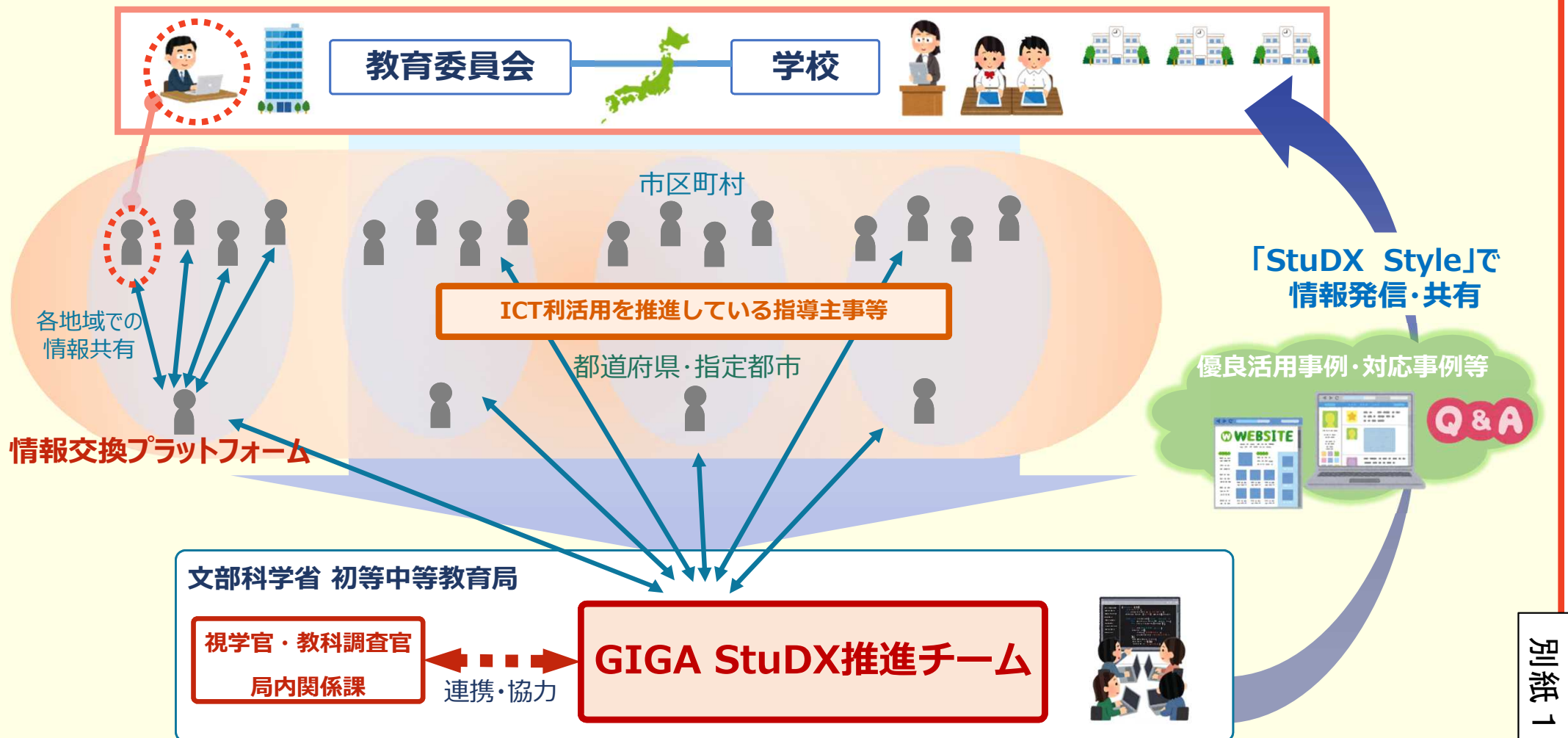
#### <本件担当>

文部科学省初等中等教育局 GIGA StuDX 推進チーム  
担当：堀田、後藤  
TEL：03-5253-4111（内線 3147、4742）  
FAX：03-6734-3712  
E-mail：jogai@mext.go.jp

ギガ スタ ディーエックス  
「GIGA StuDX推進チーム」の体制について

GIGAスクール構想の実現に伴う1人1台端末及び高速大容量通信環境の積極的な活用を促進するため、「GIGA StuDX推進チーム」を設置し、1人1台端末の利活用をスタートさせる全国の教育委員会・学校に対する支援活動を展開します。

協働体制のイメージ



# 「StuDX Style」について

1人1台端末の利活用をスタートさせる全国の教育委員会・学校に対する支援活動を展開するため、「すぐにも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる1人1台端末の活用方法に関する優良事例や本格始動に向けた対応事例などの情報発信・共有を随時行っていきます。



文部科学省

スタディーエクス スタイル

## StuDX Style

GIGAスタイルを浸透させ 学びを豊かに変革していくカタチ

"すぐにも" "どの教科でも"  
"誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン

STEP 1 現場実証中  
STEP 2 評価中  
STEP 3 普及中

教師と子どもが  
つながる

子ども同士が  
つながる

学校と家庭が  
つながる

県民同士で  
つながる

GIGAに慣れる (成長や熟達として進めるようにする)

最近実施事例のチェックリスト

開ったときの対応事例

COMING SOON

COMING SOON

教師と子どもがつながる

自分だけのスライドと共有するスライドの使い分け

オンラインカード

「検ノート」で健康記録！

GIGAに慣れる

### 毎日の振り返りの記述でタイピング力UP

■校種・学年：小学校3年生以上

■概要  
毎日5分程度のタイピング練習を行っている。最初は練習(練習用ソフトを使用)をしていたが、1か月ほどで基礎技能が身に付いたので、最近では自分で考えたことを入力するようになっている。思ったことや考えたことを自由に打てるようになることが、児童の自信につながっている。  
内容は授業の振り返りや日記、好きなテーマで実施。

■準備するもの  
・ドキュメントソフト(OS標準)  
・アンケート機能+表計算ソフト(OS標準)

ドキュメントソフトで  
タイピング練習

アンケート  
機能で提出

表計算ソフトで  
結果をグラフ化

スキルアップで  
意欲向上

ドキュメントソフトを使い、毎日続けることで、考えながらタイピングすることができるようになってくる。自分の自分の思いが書き込まれているので、文字数の増減だけでなく、自分の文章作成能力の向上についても振り返ることができる。

【実施内容】  
毎日5分程度のタイピング練習を行っている。最初は練習(練習用ソフトを使用)をしていたが、1か月ほどで基礎技能が身に付いたので、最近では自分で考えたことを入力するようになっている。思ったことや考えたことを自由に打てるようになることが、児童の自信につながっている。  
内容は授業の振り返りや日記、好きなテーマで実施。

【効果】  
毎日5分程度のタイピング練習を行っている。最初は練習(練習用ソフトを使用)をしていたが、1か月ほどで基礎技能が身に付いたので、最近では自分で考えたことを入力するようになっている。思ったことや考えたことを自由に打てるようになることが、児童の自信につながっている。  
内容は授業の振り返りや日記、好きなテーマで実施。

【アドバイザーからのコメント】  
朝の会や帰りの会、そのほかの隙間の時間を利用して、ITの操作スキルを育成する機会があることがない場合や、機会があるが慣れない場合に有効な取り組み。また、毎日取り組むことで文字量も増え、授業での活用も



# はじめてのGIGAスクール

～ 1人1台端末を、みんなで使い始めよう～

Step.1  
日常のDX

Step.2  
授業のDX

Step.3  
学びのDX

随時追加・更新

“すぐにも” “どの教科でも” “誰でも” 活かせる1人1台端末を、子ども・教師・家庭・職員みんなで使い始めましょう！

まずは、「できること」から取り組んでみましょう！

## 教師と子どもが つながる

- 「朝ノート」で健康観察
- 家庭学習カードの  
オンライン化
- 自分だけのスライドと共有  
するスライドの使い分け

## 子ども同士が つながる

- 導入でひな形学習カード  
配信
- カレンダー共有
- チャット機能で情報共有
- コメント機能を活用した  
学び合いの活性化
- 付箋操作のオンライン化
- 振り返り活動のDX

## 学校と家庭が つながる

- 保護者へのお手紙
- 個人懇談日程希望  
調査のオンライン化
- オンライン説明会の実施

## 職員同士が つながる

- 職員会議のペーパーレス化
- 授業研究会における  
クラウド活用
- 全校長がクラウドで共同編集
- 給食の残量調査

## GIGAに慣れる、日常のツールとして使いこなす

- 最初の指導を少人数で
- ローマ字テストとタイピング
- 毎日の振り返り記述でタイピング力UP！
- ICTタイム！帯学習でスキルアップ！
- スピーチ練習に音声認識
- はじめてのパスワード指導
- 話し言葉と書き言葉の指導
- オンラインコミュニティへの投稿

# 毎日の振り返りの記述でタイピング力UP

■校種・学年 : 小学校3年生以上

## ■概要

毎日帰りの会で5分間のタイピング練習を行っている。最初は視写（練習用ソフトを使用）をしていたが、1カ月ほどで基礎技能が身に付いたので、最近は自分で考えたことを入力するようにしている。思ったことや考えたことを自由に打てるようになることが、児童の自信につながっている。

内容は授業の振り返りや日記、好きなテーマで実施。

## ■準備するもの

- ・ドキュメントソフト（OS標準）
- ・アンケート機能+表計算ソフト（OS標準）



ドキュメントソフトで  
タイピング練習



アンケート  
機能で提出



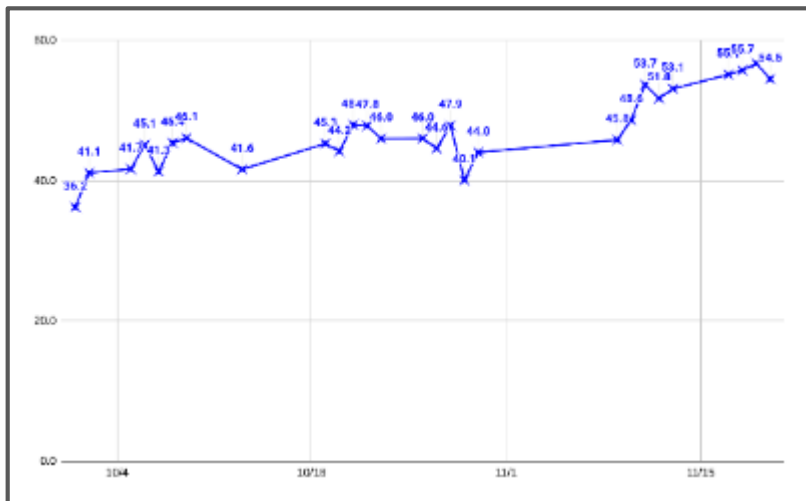
表計算ソフトで  
瞬時にグラフ化



スキルアップで  
意欲向上



5分間で自分が入力できた文字数をカウントして、表計算ソフトに入力。表計算ソフトに数値を入力するとグラフが作成され、共有できるようになっているため、入力文字数の推移を可視化できる。



ドキュメントソフトを使用。毎日続けることで、考えながらタイピングすることができる力が徐々についてくる。毎日の自分の「振り返り」が蓄積されていくので、文字数の増減だけでなく、自分の文章作成力の変容についても振り返ることができる。

9月8日

今日は国語の授業で、たくさんの人が参観に来ました。やまなしの授業では、「五月」と「十二月」のそれぞれにタイトルをつけるときに、ぼくは「クラムボン」とつけたけど、Aくんの考えを聞いて「暗い」と付け替えました。自分だけではわからなかったことも友達の見聞を聞いて意見を深めることができてよかったです。

11月20日(金)

昨日は、園工がありました。園工では、読書感想文を書きました。「やまなし」が読名になっていて、私は蟹が(出演)やまなしのことをカワセミだと勘違いしているところを聞いています。嬉しいところは、背景です。光が当たるように、底は薄く表現をしました。また、地図を今、灰色にするかを悩んでいます。先生、できれば教えて下さい。また、蟹も難しいです。蟹は、赤色なので、真っ赤担ってしまうと困るので、なるべく薄く書かないといけません。そして、今日は卓球が会えます。卓球では、サーブやレシーブなどの基本練習の他、つつさやドライブなどの技を教えてください。場所は東部体育館です。(イトーヨーカドーの近く) 難しいところもありますが、そういうところで友達と協力しながらやると、絆や笑顔が深まると思います。また、昨日はプログラミングをやりました。プログラミングとは、未来を作る感じまで動いていあふ。[スイッチや電気など。]ですが、体験をするサイトが合ったので、今回はそれをやりました。4まで行きましたが、5はもう難しく、残念でした。また、明日は、習字があります。習字では、一ヶ月に書く字が違います。なので、正直、難しいです。そして、今日は「希望の朝」

## ■アドバイザーからのコメント

朝の会や帰りの会、そのほかの隙間の時間を利用して、ICTの操作スキルを育成する実践です。まとまった時間を取ることができない場合や、教育課程にうまく位置付けることが難しい場合に有効な取り組みです。

また、毎日取り組むことで文字入力スキルは確実に向上し、その結果、授業での活用が進んでいきます。

# 家庭学習カードのオンライン化

■校種・学年 : 小学校6年生

■活用の概要 :

クラウド上で家庭学習カードを共有。表計算ソフトで家庭学習カードのフォーマットを作成しておき、家庭にいる時間または朝活動を使って、学習の予定、家庭学習の取組時間、一言日記などを児童が入力できるようにしている。

入力後は、すぐに共有化され、教師も確認することができる。確認するための時間が短縮され、児童の学習状況の把握がしやすくなった。児童一人一人の取組状況について、コメント機能を使ってなるべくタイムリーにフィードバックするようにしている。

■準備するもの

- ・表計算ソフト（OS標準）+コメント機能



## 表計算ソフトで教師と児童が 家庭学習カードを共有



## スピーディなフィードバックで 児童一人一人のやる気向上

家庭学習カードは、表計算ソフトで作成。家庭学習を行った時間を入力すると棒グラフになるように作成。視覚的に学習時間を確認できる。

### カード (時間は半角で入力)

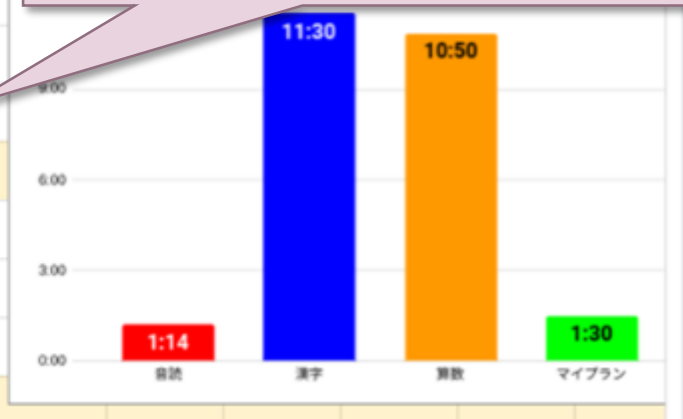
持久走に向けて体力付けを頑張りたい。(具体的にはたくさん走る。)

音読 (●:●●)	漢字 (●:●●)	算数 (●:●●)	マイプラン (●:●●)	一言日記
0:05	0:30	0:30	0:10	フェスタ勉強をたくさんすることが出来た。前回のフェスタでは一発合格だったけれど、今回のフェスタでは、自分が苦手なものがたくさん入っていたので、少し心配になりました。でも、これから、たくさん勉強していつかフェスタに聞かないようにしたいです。さ
	0:30	0:30		お母さんと、お姉ちゃんとお昼の12時から夜の10時40分くらいまでずっとテレビを見ていました。お姉ちゃんとお母さんの見たいものを携帯からテレビにつなげて見ていま
0:05	0:30	0:30	0:10	今日は、リレーでタイムが縮んだので良かったです。バトンパスのミスなども無く出来ました。これからの練習や、本番でもバトンパスをミスなくして一位になりたいと思いました。
0:05	0:30	0:30	0:20	今日は、六時間目が体育ではなくて学年集会になりました。やられた人はとても可哀想だと思いました。やってしまった人もならかの気持ちがあってやってしまったと思います。幕
0:05	0:30	0:30	0:20	今日の体育では、体育を見学した人や早退をしてしまった人がいたので、急遽掃除の前の時間に決め直しました。実際にリレーをしてみて、結果は二位だったけれど協力して頑張
	0:30	0:30		今日はピアノがありました。そして家に帰って暇だったのでゲームをしていました。ゲームは楽しいです。何時間でもやっていられます。暇つぶしに最適なものは私の中ではゲー

練習を大切にしてください。でも、タイムが良かったです。昼休みのみんなはだんだん運動が疲れました。リレーも、可愛かったで

11:20 11月11日

本番に向けて、クラスの士気が高まってきました。いい感じですね。



### オンラインカード

印刷・集める・配るなどの作業が削減されるだけでなく、教師は児童一人一人の取組状況をいつでも確認・評価することができる。

11月 オンラインカード 9

期限なし

①学習時間を入力しましょう。  
②日記を書きましょう。  
③提出しましょう。

17 提出済み | 8 割り

※質問がありましたら、限定コメントをお使いください。担任がコメントする時間は平日7:00~17:00です。

11月 Google スプレッドシート

クラスのコメント 9件

### ■アドバイザーからのコメント

オンラインで配信することで、家からでも学校からでも入力や確認ができます。もちろん教師も児童一人一人の取組状況をいつでも確認することができ、コメント機能を使って評価や支援を行うことができます。

また、表計算シートに入力していくことで、表計算ソフトの機能を理解し、データを取り扱う他の学習活動でも活用ができるようになっていきます。

# 付箋操作のオンライン化

■校種・学年 : 中学校 1 年生

■活用の概要 :

中学校 1 年生の実践。外国の50年ほどの貿易の変化について教科書から情報を収集し、生徒が3人グループで情報の整理を行った。

クラウド上のホワイトボードで付箋を操作する作業を共同編集しながら、情報を整理したり、様々な情報から分かったことを書き込んだりした。

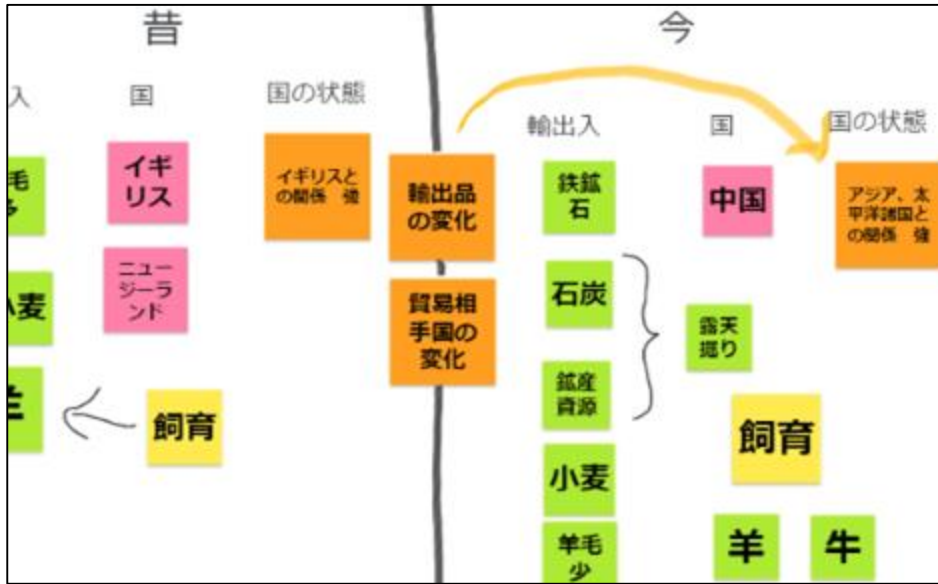
■準備するもの

デジタルホワイトボードソフト (OS標準)

## 模造紙上の付箋操作 をオンライン化



## 教材準備の省力化 + 思考過程のビジュアル化



昔と今を比べながら学習を進めることで、「アジアとの結びつきが強くなっている」という概念的知識を獲得していく様子が見られた。整理分析の場面では、情報の分け方についてグループで議論するなど協働的な学びさせることができた。

### ■アドバイザーからのコメント

同時に共同編集をすることができるデジタルホワイトボードソフトを活用した実践です。協力して情報を集め、整理・分析する経験をさせることにより、知識は人から与えてもらうものではなく、自分で獲得するものだというところを、活動を通して体験することができました。

## 保護者へのお手紙

■校種・学年 : 小学校6年生

■活用の概要 :

学級便り用の共用アクセス先を作成。

保護者には、児童と同じアカウントを家庭の端末（スマートフォンやタブレット等）に登録してもらい、これまで紙媒体で配布していた手紙等をオンライン化。

子どもたちの学校生活の様子をタイムリーに配信している。

（白黒で画質の悪い紙印刷からのインパクトは大！）

■準備するもの :

- ・スライドソフト（OS標準）
- ・家庭端末へのアカウント登録



教材と同様スライド  
アプリで作成・配信



作成・印刷・配布  
作業からの脱却



タイムリーな  
情報提供



学級便りをオンライン配信。スマートフォンで読むことを考え、写真メインで構成する。横長のスライドで編集し、PDFにして配信。

### ■アドバイザーからのコメント

私たちは生活の多くの情報をスマートフォンなどの情報端末から収集しています。学級便りも同じように、スマートフォンでいつでもどこからでも読むことができれば、保護者の方も安心です。

学級便りに限らず、学級、学年、学校に関する様々な情報を情報端末で閲覧できることで、シームレスな情報提供が可能となります。



# 個人懇談日程の希望調査をオンライン化

■校種・学年 : 中学校

■活用の概要 :

保護者会などの出欠確認や個人懇談の日程希望調査は、これまで家庭と紙媒体のやりとりによって実施してきたが、一連の事務手続きをオンライン化。

印刷・配布・回収・集計にかかっていた時間を大幅に短縮することができた。

■準備するもの

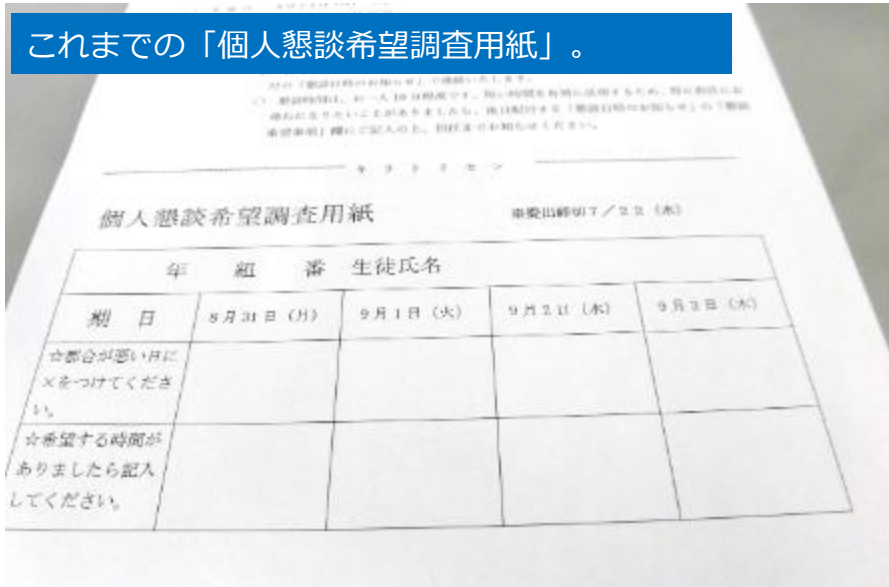
- ・アンケート機能→表計算ソフト（OS標準）

# アンケート機能による 各種調査のオンライン化



# 家庭・学校双方の 事務手続きの効率化

これまでの「個人懇談希望調査用紙」。



アンケートフォームを作成。回答ページのURLは、一斉メールで通知。



B	C	D	
学年・組	名前	8月31日 (月)	9月1日 (火)
2	3年1組	13:30~14:00	
1	3年1組		16:00~16:30
5	3年1組	何時でもよい, 14:30~15:00	13:30~14:00
8	3年1組		16:00~16:30
6	3年1組		
3	3年1組		
4	3年1組		16:00~16:30
7	3年1組		16:00~16:30
4	3年1組		
2	3年1組	15:30~16:00	16:00~16:30
6	3年1組		
4	3年1組		
5	3年1組		
7	3年1組	14:30~15:00, 15:30~16:00, 16:00~16:30	13:30~14:00
0	3年1組	何時でもよい	13:30~14:00
0	3年1組	何時でもよい	13:30~14:00
8	3年1組	15:30~16:00, 16:00~16:30	15:30~16:00

各家庭からの回答は、自動的に表計算ソフトで集計されるため、希望調整にかかる時間を大幅に削減できる。

## ■アドバイザーからのコメント

保護者もスマートフォン等の情報端末から、都合の良い時間に回答できるので便利です。ただ、しばらくしても回答のない方には再度連絡することや、紙媒体でも配布して、回答を促すことも運用初期には必要であると考えます。

## 職員会議のペーパーレス化

■校種・学年 : 小学校

### ■活用の概要 :

働き方改革を進める中で、職員会議の要項を準備する時間の削減、会議の行い方の改善を目指している。

データを共有することで、印刷時間の削減や紙代の節約など、その効果はとて大きかった。また、ビデオ会議ソフトを活用することで、遠隔会議を行いながら会議資料等のデータが閲覧できるため、全員で職員室に集まる必要はなく、時間を効率的に使えることができるようになった。

### ■準備するもの

- ・ビデオ会議ソフト (OS標準)
- ・ドキュメントソフト等 (OS標準)

職員会議の  
オンライン化



業務の効率化  
コロナ禍への対応



職員の操作スキル向上  
授業での活用イメージの明確化

データをクラウド上で共有するとともに、ビデオ会議ソフトを活用することにより、全員が一か所に集まらなくても職員会議を開催することができるようになった。休校措置となった場合でも職員間の意思疎通を図ることができる。



## 第8回職員会議要項

梅田健作・11月11日【最終編集:11月12日】



クラウド上で資料を共有することで、印刷、製本の時間を短縮することができる。大規模校ではその効果は顕著である。また、個人的に必要なページのみ印刷すればよいので、用紙やインクの節約にもなる。

## 令和2年度 なわとび週間について

令和2年11月12日  
体育部

### 1. ねらい

- ・ なわとびを通して体を鍛え、寒さに負けず元気に遊ぼうとする意識を高める。
- ・ なわとびに興味をもたせ、個々の技術の向上を図る。
- ・ 友達同士で教え合い、一緒に運動することで、望ましい人間関係の育成を図る。

2. 期 間    2学期 11月30日(月)～12月23日(水)  
              3学期 1月7日(木)～1月15日(金)

### 3. 実施計画

- ・ 11月30日(月)の朝会にて体育委員がなわとび週間のお知らせ、見本演技をする。

実際の資料画面は視認性も十分であり、音声による説明と併せて見ることができる。また、質問などもビデオ会議アプリを通してできるので、検討・協議を行う場としての職員会議が成り立つ。

## ■アドバイザーからのコメント

授業での活用の前に、このようにいろいろな場面で体験をしていくことで、活用イメージやその便利さをきちんとつかむことができます。もちろん、業務改善につながることで、とてもいい取り組みです。

# 事例提供協力校 及び 編集協力者

## ■「StuDX Style」に掲載されている事例提供に協力いただいた設置者・学校(五十音順)

- 春日井市教育委員会
- 春日井市立高森台中学校
- 春日井市立藤山台小学校
- 小金井市立前原小学校
- 狛江市立第五小学校
- 静岡市立南部小学校
- 北海道教育大学附属函館中学校
- 水上村立岩野小学校
- 港区立麻布小学校
- 宮城教育大学附属小学校
- 焼津市立豊田小学校

## ■事例の編集に協力いただいた有識者

- 東北学院大学文学部 教授 稲垣 忠
- 宮城教育大学技術教育講座 教授 安藤 明伸
- 鹿児島大学大学院教育学研究科 准教授 山本 朋弘
- 東京学芸大学教育学部 准教授 高橋 純
- 信州大学教育学部 助教 佐藤 和紀
- 常葉大学教育学部 専任講師 三井 一希
- 春日井市立高森台中学校 校長 水谷 年孝

文部科学省委託事業（新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業（「ICT 活用教育アドバイザー」の活用事業））による。